

鷲尾外務副大臣の日・セネガル外交関係樹立60周年記念式典 開会式挨拶
(2020年11月18日、於：JICA市ヶ谷ビル)

ゴルギ・シス駐日セネガル大使閣下、
奥野信亮衆議院議員、自民党日本・セネガル友好委員会委員長、
御列席の皆さま

茂木外務大臣に代わり、一言御挨拶申し上げます。

まず、本年のセネガル共和国独立60周年に心から御祝いを申し上げます。我が国とセネガル共和国が60年の長きにわたり、一貫して極めて良好で温かな友好関係を築いてきたことを大変嬉しく思います。

アフリカの西の端に位置するセネガルと我が国とは地理的には遠く離れておりますが、様々なレベルで活発な交流がなされています。1984年には当時皇太子同妃両殿下であられた上皇上皇后両陛下がセネガルを訪問され、温かい歓迎を受けました。文化の面では、初代サンゴール大統領の誉れ高きセネガルにおいて、1979年から始まった俳句コンクールが40年以上の間、毎年開催されています。

スポーツの面でも、柔道が盛んである他、パリ・ダカール・ラリーで日本人初の優勝を飾った篠塚健次郎氏が今でも小学校建設といった面でセネガルに関わられています。また、セネガル相撲も有名です。1992年には、初代横綱若乃花であった故二子山親方が、相撲のルーツを求めてセネガルを訪れました。

本年は、セネガルへの海外協力隊派遣開始から40周年でもあります。これまで1,147名の隊員が、セネガルで、現地の言葉を話し、現地の人々と苦楽を共にし、人材育成や生計向上に貢献してきました。その取組に改めて敬意を表したいと思います。

現在、世界が直面する新型コロナウイルス感染症により、外交活動も、人々の交流も、ビジネスも、大きく制限されておりますが、来年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会、そして再来年のTICAD8も見据え、様々な分野で日・セネガル間の交流を深めたいと考えています。

最後に、セネガル共和国の益々の御繁栄と、日・セネガル関係の一層の発展を祈り、御挨拶とさせていただきます。

御静聴ありがとうございました。

(了)